

LPガスCP速報(2025年2月積)

1. 2月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **635** ドル (前月比+10 ドル)

ブタン **625** ドル (前月比+10 ドル)

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が急騰するなか、中東市場は、需要期を迎え寒波到来、市況は堅調に推移した。サウジが2月積み数量を制限、プロパンは最低数量で通知、スポット市場ではベトナム、台湾、インドネシアなどがブタン付カーゴを手当てしている。中国勢の手当ても散見されてきたが、メンテナンスを終えたPDHの稼働率はマージン悪化で上がっており、春節を迎え休暇モード。極東CFR市況は、第4週でプロパン前週比10 ドル 軟化の640 ドル 、ブタンは横ばいのブタン650 ドル どころで推移した。

米国市場は、プロパンの供給が絞られるなか、需要期を迎え在庫は取り崩しが続いている。全米のプロパン在庫水準は5年平均レンジの中央まで低下(グラフ②参照)。モンベルビュープロパンスポット価格は、寒波による天然ガスの急騰、暖房需要増と輸出量の高水準が続き、中旬には511 ドル まで急伸、月間平均では前月比70 ドル 上昇の470 ドル / トン どころ(グラフ①参照)に急騰した。

フレート市況は、堅調に推移した。米国～極東市場は100～110 ドル どころ、中東～極東は50～60 ドル どころ。中東市場は、船舶需給が緩和していたが、インド勢の手当てが下支え、喜望峰経由の米国向けも選択肢。米国市場はMB市況の急騰で極東向けマージンが低下、パナマ運河通航のオークション費用が高騰するケースも散見されフレート市況を圧迫している。今後の米国積みは、余剰船舶が残っているものの寒波、濃霧による遅延も懸念され、動意薄か。

ナフサ市況は3ヶ月ぶりの反騰、月間平均は前月比38 ドル 上昇の673 ドル どころ。原油市況の急騰に連れ高となった。ナフサ高から石化向けブタン需要、価格を押し上げている。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は3ヶ月ぶりの反騰、月間平均で前月比37 ドル 上昇の500 ドル どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は大幅反騰、前月比48 ドル 上昇の721 ドル どころ、ガスオイル・C重油との格差は221 ドル に拡大。

2月CPは前年同月比プロパン5 ドル 上昇、ブタン同15 ドル の下落。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン、ブタンそれぞれ6ポイント下落、前年同月比ではプロパン2ポイント高く、ブタン1ポイント低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート(中東-日本)	60	60	60	50	58
CP先物指標:P	620	640	630	630	630
CP先物指標:B	610	630	620	620	620

② 原油市況等

1月の原油市況は、米政権の移行期で大きく動いた。年明けWTIは73 ドル 台でスタート、バイデン大統領がロシアに追加制裁を課し、ロシア産原油の供給懸念から15日には昨年8月以来の80 ドル を付けたが、ハマスとイスラエルがガザ停戦・人質解放で合意、相体力指数は買われ過ぎ感を示していた。トランプ政権が発足すると矢継ぎ早に大統領令が発せられた。米国内石油・ガス開発の規制緩和、パリ協定からの離脱、カナダ、メキシコへの関税賦課を打ち出し、サウジ、OPECに対して価格引き下げを要求するなど市場は消化不良を起こし、29日には年初来安値の72.62 ドル まで下げた。一方、米原油生産量は過去最高水準を維持しているが、輸出も増加、全米原油在庫は減少が続き5年平均レンジをした抜ける低水準、先物市場では、プロンプトスプレッド(期近2限月)の逆ザヤは拡大傾向、大口ファンダ筋の買い越し残高は2023年10月以来の水準まで増加している。

○1月積みアラビアン・ライト(1月1～29日までの想定)は81.25 ドル (前月比+6.35 ドル)

熱量等価AL100% プロパン666.17 ドル / トン ブタン657.03 ドル / トン

AL比 プロパン95.32% ブタン95.13%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

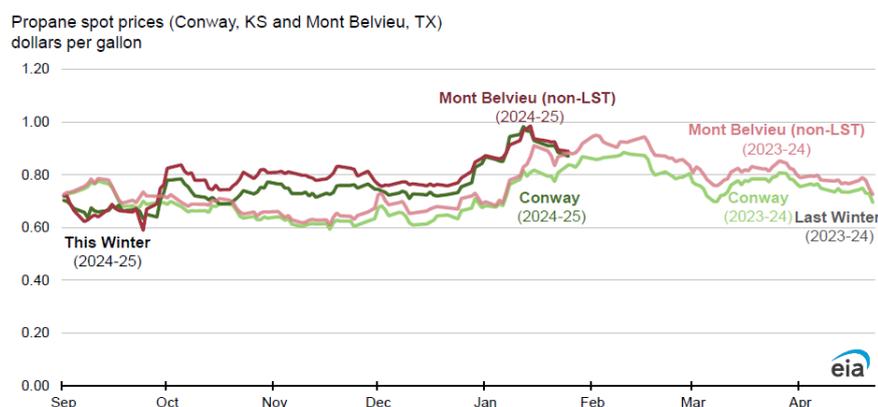
2. 2025年2月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
1月月間	157.65	106,300	106,800	+5,000	+1,400

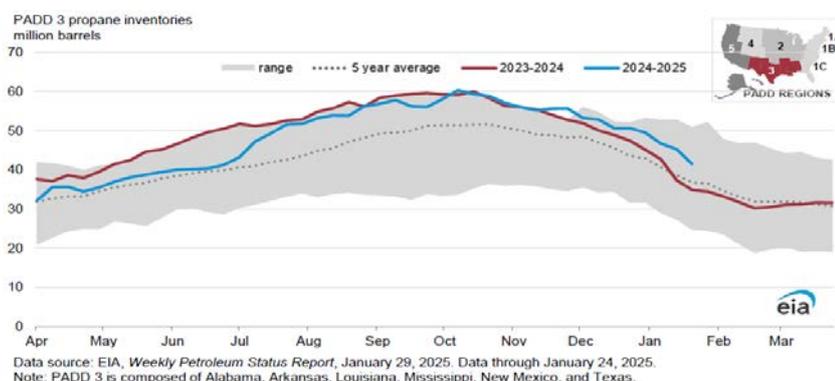
* TTS平均等について、各社の適用為替レートが昨年4月仕切改定から月間平均に統一された。
 上記は1月1～30日までのTTS平均。CPは前月・当月50%案分。プロパンのMB合成比率はCP70%、MB30%で算定。CFRコストは中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。CFRコストには北米の基地経費等も含まれ、各社で異なる。

なお、上記MBは1月27日までの価格を基にEINで試算（470ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

① 米国プロパンスポット価格推移



② 米メキシコ湾岸プロパン在庫推移



③ 米プロパン輸出量推移

